

令和3年度 第1回西部地域政策総合会議(書面開催)ご意見への回答

| No | 委員からのご意見・ご提言   | 西部総合県民局からの回答   |
|----|--|--|
| 1  | <p>コロナウイルスのパンデミックにより様々な形での仕事の取組み(リモートワーク)が拡大し、出張や会議も新しいやり方が定着しつつあります。コスト面や効率性を鑑みて、今後も書面開催やリモート会議を取り入れながら、リアル開催も効率的に実施して頂くの良いのではないかと感じます。とにかく評価部会での委員さんからの提言やご意見をしっかり取り入れて次年度の政策に活かして頂ければと思います。</p> | <p>(ご提言として頂戴いたします。)</p>  |
| 2  | <p>コロナによる対策として、ニューノーマル対応の情報発信、にし阿波の魅力づくりに注力いただいたことと思います。これから情勢が好転し、国内、海外のお客様が来られた際の受け入れ態勢は、この期間に準備が進んだことと思います。引き続き受け入れる側の人材育成、スキルアップ、地域を挙げてのおもてなし態勢づくりに組織を挙げて取り組んでいただきたいと思います。</p>                 | <p>新型コロナウイルス感染症を契機として、国内外の旅行会社等に向けて、リアルとオンラインによるハイブリッド型のプロモーションや感染防止対策を施した上で参加者が安心して体験ができる新しい観光コンテンツの開発や磨き上げを進めております。</p> <p>また、圏域内の観光・宿泊事業者や教育旅行受入家庭等を対象に、衛生対応や地域の観光資源・語学などの様々な研修を行い、おもてなし力の向上、人材の育成を図っているところです。</p> <p>アフターコロナにおいて国内外から選ばれる観光地となるため、引き続きこれらの取組を積極的に進めてまいります。</p> |
| 3  | <p>剣山ファンの拡大は、若者や海外客へ、新しい剣山の魅力を情報発信し、来訪客の増加を図ることと思いますが、こちらもアウトドアガイド等人材育成を進めていただきたいと思います。</p>  | <p>コロナ禍においては、アウトドアアクティビティは従来にも増して観光客に求められているところです。にし阿波は、アクティビティフィールドの宝庫であり、剣山周辺での「お任せハイキング」や「リパートレッキング」など魅力的なコンテンツを提供する事業者も増えております。</p> <p>このような状況を好機と捉え、関係事業者と連携して、ガイドや指導者などの人材育成に取り組んでまいります。</p>   |
| 4  | <p>野生鳥獣の被害の減少に向けて、例えば、剣山周辺の宿で、ジビエのメニューを提供する際に、鳥獣被害に困っている声を併せて紹介するなど、ストーリー性がある解決策があれば分かりやすく伝わると思います。</p>  | <p>県で作成した「阿波地美栄ガイドブック」において、「うまいよ！ジビエ料理店」認定店やジビエレシピ、加工処理施設の紹介とともに、農作物がシカやイノシシによる被害を受け困っていることや、ジビエを食べることで地域の資源として活用できることを紹介しています。</p> <p>今後とも、ジビエを食べることが、野生鳥獣の被害の軽減に繋がることを分かりやすく伝えてまいります。</p>  |

| No | 委員からのご意見・ご提言   | 西部総合県民局からの回答  |
|----|--|---|
| 5  | <p>西部防災館様でイベントの情報発信、活動報告をSNS等で行われておられます。身近に防災意識を高められる拠点があることに安心感があります。今後も取り組んでいただきたいと思います。</p>   | <p>西部防災館では、地域住民の方を対象に「避難について」や、小中学生を対象に「まなぼう祭」など「防災」講座を開催し、多くの方に参加いただいております。イベントや講座についてSNS等（HP、Facebook）で情報発信しております。</p> <p>引き続き、県民の防災に関する意識の啓発及び知識の普及に努めてまいります。</p>  |
| 6  | <p>コロナによる貧困や児童虐待、DV被害を未然に防ぐサポート体制、各行政間での連携や情報共有をお願いしたいと思います。</p>   | <p>新型コロナウイルス感染症による貧困に対しては、相談支援体制の充実に向けて市町などの関係機関との連携強化や情報共有を図ってまいります。</p> <p>また、児童虐待及びDVの未然防止と早期発見・早期対応を図るため、市町庁舎等においてパネルや資料の展示による相談窓口の周知と啓発に努めるとともに、関係機関を対象とした研修会等を開催し、支援者の技術向上と連携強化や情報共有を図ってまいります。</p>                  |
| 7  | <p>更に「にし阿波の傾斜地農耕システム」の県内外へのPR、情報発信をしていただき、生産者様がやりがいを持って生産していただける「もうかるシステム」の構築をお願いいたします。</p>  | <p>「にし阿波の傾斜地農耕システム」については、世界農業遺産PR動画の作成やシンポジウムの開催、地元小中学生等を対象としたSDGs教育等を行い、県内外へのPR、情報発信に取り組んできたところです。</p> <p>今後とも、認知度を更に高めるためのPR、情報発信を行い、「にし阿波の傾斜地農耕システム」で生産された農産物が消費者に選ばれ、生産者にやりがいを持って生産していただける「もうかるシステム」の構築を進めてまいります。</p> |
| 8  | <p>生活様式の変化や人間関係の希薄化などにより、問題を抱えながら生活している方々が地域には潜在しています。</p> <p>潜在している方々を発見し、支援に結びつけるためには行政はもちろん、地域の方々からの情報提供が欠かせません。自ら相談に来られる方は「頼る力」を持っていますが、潜在している方々はその力すらもない、あるいはあきらめている状況、と思われる。その様な方々に気づくための仕組みづくりとして、気にかかることを相談できる窓口が必要です。県、市町などの行政、社会福祉法人が連携して相談を受け、関係機関につなげる仕組みを作るべきです。</p> <p>以前、ひきこもり相談を受けましたが、インターネットで調べて電話相談したが、たらい回しにされ、社会福祉協議会に辿り着いた、と話されていたことがありました。必死の思いで電話した相談者の気持ちを考えると胸が痛むと同時に、あきらめずに電話してくれて良かったという気持ちになります。私はひきこもり相談については専門家ではないため、具体的な支援は難しく、他の機関につなげさせていただきました。しかしながら、相談者は最初に対応してくれた、という思いがあり、現在も関わっています。このような体験もあり、「受け止める」ということを大事にして欲しい、誰でもいいから受け止めるべきだと感じました。</p> | <p>西部圏域における福祉に係る諸問題について、県と市町が連携協力を図るため「にし阿波福祉連携推進会議」を、西部圏域の福祉に関する調査研究を行うため、「にし阿波福祉連携推進会議幹事会」を設置しております。</p> <p>これらを活用して、各種相談事項と関係機関を整理し、その情報を共有することにより、「受け止める」ということを大事に、相談受付と関係機関に繋げる仕組みづくりを検討してまいります。</p>                 |

| No | 委員からのご意見・ご提言   | 西部総合県民局からの回答   |
|----|--|--|
| 9  | <p>新型コロナウイルスの影響をいまだに受け続け、生活の向上・回復に至っていない方々もたくさんおられます。</p> <p>社会福祉協議会でコロナ特例で生活福祉資金の相談受付を行っている中で感じたことを申し上げます。</p> <p>相談者の中に飲食店で勤務されている方がいらっしゃいます。時短要請に応じた事業主には協力金が支払われていますが、従業員に対する支援が行き届いていないと思いました。厚生労働省の休業支援金・給付金を申請するにあたり、事業主の協力を得ることが難しいため申請できないケースがありました。事業主の協力が無くとも申請できるのですが、勤務時間の記録がないため申請に至りませんでした。申請するにしても支援を受けないと書類を整えることもままならない方もいます。結局はそのような方々が困窮してしまい、生活維持ができなくなります。原資にも限りがあり、申請主義になっていることで社会的弱者はいつまでも貧困から抜け出せない、という状況に陥っていると感じました。</p> <p>仕組みや制度の問題もありますが、「相談したいときはどこに行くべきか」という周知・広報が出来ていないという問題もあります。住民の方々が安心して暮らせるまににするため、相談窓口を広く充実させていただきたいです。</p> | <p>「にし阿波福祉連携推進会議」、「にし阿波福祉連携推進会議幹事会」を活用して、各種相談事項と関係機関を整理し、その情報を共有することにより、「受け止める」ということを大事に、相談受付と関係機関に繋げる仕組みづくりを検討してまいります。</p> <p>また、生活困窮者の支援者の育成や、関係機関との連携強化、相談窓口の周知・広報を図り、地域の方々が安心して暮らせるよう相談支援体制の充実強化に努めてまいります。</p>   |
| 10 | <p>多くのコロナ対策、数々の補助金制度、クーポン収集等、日々お忙しく動いている行政の皆様には感謝申し上げます。今後のアフターコロナにおきましては通常の施策や考案ではいつまでも行きたい県40位ぐらいからUPできないと思います。</p> <p>せっかくコロナ発生が少なく三密のない自然の魅力あふれるにし阿波を全面に皆が訪れてみたいと思えるようなことを考え実行して欲しいと思っています。</p> <p>①祖谷の日本の原風景を楽しんで、もう少し多くの人に来てもらう為に、ヘリコプター(吉野川(ooboke koboke)祖谷渓谷)遊覧とか、危機管理を含みヘリポートを作り、祖谷を堪能します。</p> <p>②日本でも外国でも有名なホテルの誘致</p> <p>③自然の魅力を使いkobokelにバンジージャンプを含む展望台など、どこにもないもの、三密でない所で出来るエンターテイメントレジャー施設を実現させたいと思います。</p> <p>魅力はあるのに誘客数の少ないにし阿波から脱却したいです。</p>  | <p>にし阿波地域におきましては、地域特有の魅力ある観光資源を活かした体験プログラムを開発し、官民連携して国内外に情報発信することにより観光誘客を進めて参りましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年以降は激減しました。</p> <p>現在も海外での営業は困難な状況が続いていますが、「今だからできること」として、「滞在型観光の新たなプログラム、商品の開発」、「宿泊、観光施設での衛生対策やおもてなしについての研修」、「国内外の旅行会社等へのオンラインによる商談会や営業」、「SNSによる情報発信」等により、これまで築いてきた旅行会社等との関係を継続するとともに、さらに増進させるよう、積極的に取り組んでいるところです。</p> <p>今後もアフターコロナを見据えて、市町や関係団体と連携し、「GoToトラベルキャンペーン」等国の方針や感染状況を勘案しながら、近隣地域、全国、海外へと段階的に誘客活動を進めることにより、できるだけ速やかな旅行需要の取り込みに努めてまいります。</p> |
| 11 | <p>評価部会における要改善項目「観光～」について</p> <p>インバウンドの減少はやむを得ないが、国内誘客は工夫をすれば可能と考えます。</p> <p>その中で、</p> <p>①旅行に行きたいが行けない様々な不安を取り除くこと。</p> <p>②「にし阿波」を選んで旅行に来た人のマーケティング。<br/>→マーケティングに基づいた観光プロモーション再設計</p> <p>③よりターゲットングした観光プロモーション設計<br/>(ex.帰省者とその家族、民宿など貸切希望者、卒業旅行など)</p> <p>にし阿波が今まで以上に選ばれる観光地域となるよう、心より祈念致します。</p>   | <p>コロナ禍において観光誘客を進めていくためには、安全安心は重要な要素であると考えており、観光・宿泊事業者や教育旅行受入家庭等を対象に衛生対応の研修を行っているほか、密を避けやすいアウトドアコンテンツに関心が集まっていることに注目し、新たなアウトドアコンテンツの開発を実施しております。</p> <p>今後、マイクロツーリズムから国内、海外と段階的な誘客を進めていく上で、ターゲットの絞り込みにも配慮しながら、国内外からの旅行者に選ばれる観光地域づくりを進めてまいります。</p>  |

| No | 委員からのご意見・ご提言  | 西部総合県民局からの回答   |
|----|---|--|
| 12 | <p>徳島県立西部防災館では、来年度(R4.4～)より、小・中学校を対象にZoomでの防災講座を実施する予定です。これにより、コロナ禍でも講座に参加しやすくなるのではないかと考えております。</p> | <p>(ご提言として頂戴いたします。)</p>  |
| 13 | <p>糖尿病の数が日本で高いと言われているが、実際の所はどうなのでしょう。単に高齢者が多いから数値が上がっているだけなのか、実態を教えてください。</p>                       | <p>徳島県における令和元年の「糖尿病粗死亡率」(糖尿病による死亡数÷人口)は全国平均を上回り、ワースト1位(全国11.2、徳島県18.0)となっており、西部圏域では25.5となっております。</p> <p>「糖尿病粗死亡率」は高齢者の多い都道府県では高くなる傾向にあるため、年齢構成を調整した「年齢調整死亡率」によると、徳島県では平成27年は、平成22年より男女ともに減少し、男性がワースト16位、女性がワースト12位となっております。</p> <p>(年齢調整死亡率は国勢調査の人口を基とするため、平成27年が直近値です。)</p> <p>現在、県では徳島大学と2市2町と共同で、西部圏域をモデルとした「糖尿病予防研究」を実施しております。その結果を今後の糖尿病対策に活用するとともに、従来の事業と合わせて糖尿病対策を進めてまいります。</p> |
| 14 | <p>企業のサテライトオフィス誘致については、コロナ後を見据えて拡大していけるような取組を期待しています。</p>   | <p>アフターコロナを見据え、充実した「リモートワーク環境」や、にし阿波の強みである観光、アクティビティを活かした「ワーケーション」、サテライトオフィスと地元企業間の「交流・連携」による「ビジネス創出」を進める等により、国内外企業のサテライトオフィス等の誘致を進めてまいります。</p>  |